



村松英俊（むらまつ・ひでとし）は 1988 年静岡生まれ、2016 年東北芸術工科大学大学院修士課程芸術文化専攻彫刻領域を修了。2016 年に 2 つ、2017 年に 1 つのグループ展に参加、2017 年に京都の gallery MARONIE で初個展、今回が東京初個展となる。今週の展覧会は、東北芸術工科大学による卒業生支援プログラム「アートウォーク」の一つである。銀座周辺の 16 のギャラリーがそれぞれ推薦する作家を紹介するものである。ステップスギャラリーの吉岡は、「単純に面白そう」という理由で村松を選出した。

「村松は古い物の一部を大理石で作って、本物と入れ替える。ただそれだけである」(吉岡) 作品を 5 点出品した。氷掴み、ベル、手押しポンプ、ミシン、独楽という各モチーフは、現在使われていないであろう、古い器物である。既にもっと優れた機械が存在し、無用の長物と成り果てた物達ばかりである。村松はミケランジェロも使用している大理石という素材を用いて、その一部を補完しようとしているのであろうか。それとも朽ち果てる鉄という存在の対比を目論んでいるのだろうか。作品の 1000 年後を見たい。



